



2017年12月25日

内閣総理大臣 安倍 晋三様
防衛大臣 小野寺五典様
沖縄防衛局長 中嶋浩一郎様
Lieutenant General Nicholson

沖縄YWCA
会長 糸洲のぶ子

普天間基地所属大型輸送ヘリコプターCH53E 落下物事故に強く抗議します！

12月7日(木)10時20分頃、普天間基地所属の大型輸送ヘリコプターCH53Eの円筒状の部品が普天間バプテスト教会付属緑ヶ丘保育園の鉄製の屋根に落下しました。当時、園庭には30名程の園児が遊んでおり、物体は園庭落下までに50センチ程手前の屋根の上で止まりました。園児、職員にけがはなかったものの、あわや命の危険を伴う大惨事になりかねませんでした。

この落下物は、プロペラの異常を感知する機器のカバー(異常感知の際に放出する放射性物質ストロンチウム90を保護するキャップ)ということが分かり、米側は、米軍の物であることは認めましたが、飛行する米軍ヘリから落下したのではないと否定しています。園の鉄製の屋根には落下時にできたとみられるへこみ2か所も見つかっており、県の騒音測定局での二度の衝撃音の記録とも合致しています。早急な原因の究明を強く要望します。保育園の父母会は、「普天間基地を離着陸する米軍ヘリの保育園の上空の飛行停止」を求めています。

12月13日(水)10時過ぎ、CH53Eから約90センチ四方、7.7kgの窓が普天間第二小学校の運動場に落下しました。当時、約60名の児童が体育の授業中で男児1名がけがを負いました。これに関して米側は、飛行前の点検で安全ワイヤの固定を見落とすなどの「人的ミス」であり、機械の構造上の欠陥や整備不良ではないとしました。兵員の「マニュアルの再教育」や「学校上空の飛行禁止」などの再発防止策もどれだけ徹底されたか分らぬまま、6日後には、保育園、小学校の上を飛行再開しています。そもそも米国においては、クリアゾーンには住宅や学校、病院、集会場などもあってはならないとされており、それほど私たちの命は軽視され、日々危険にさらされています。

事故以来、緑ヶ丘保育園と普天間第二小学校には、「自作自演」であるとか、嫌がらせの電話、メールが絶えません。被害当事者が二重、三重の痛み、苦しみを受けることが当然とされる社会を認めるわけにはいきません。人は誰しも安心、安全な人生を生きる権利があります。普天間周辺の人々、とりわけ子どもたちが、すこやかに成長できる社会を心から望みます。

沖縄YWCAは、普天間基地に離発着する米軍ヘリの飛行禁止、さらに普天間基地の即時閉鎖・無条件撤去を強く要求します。